

## 山陰門推協会報

第22号

## ともしび

発行  
浄土真宗本願寺派・山陰教区  
門徒推進員連絡協議会  
代表者 齊 藤 寛

事務局  
〒690-0002 松江市大正町443-1  
本願寺山陰教区内



2024年度 第4連区門徒推進員実践運動研修会

## 内 容

2～5頁…寄稿  
6～7頁…門徒推進員という生き方  
【理念】  
8頁……門推役員名簿・お知らせ

## ご挨拶

山陰教区門徒推進員連絡協議会 副会長 今岡昌紀

令和六年四月に再び副会長を仰せつかりました神門組願楽寺門徒の今岡です。当協議会の運営にあたり、会長を補佐し、門徒推進員の皆さんの生涯仏者としての歩みを手助けできればと思っておりますのでよろしく願います。

私が門徒推進員として登録されたのは平成十一年で、経歴としては二十六年になります。実質的な活動は、退職二年前に御院家様から総代の任を頂いた時からです。それから所属寺院はもちろんのこゝと旧縁のある寺院の報恩講・彼岸会・降誕会等の行事へ参加し、退職後には組の門徒推進員連絡協議会（以下門推という）の研修会にも参加しました。それが門推との深い関わりの初めです。

このように、仏教と関わる中で、命の大切さ、諸行無常、四苦八苦、八正道の教えなどについて考えるようになり、生あるものは必ず死を迎える。死んだらどんな世界へ行くのか、お浄土へ行きたいという願いが生まれました。そ

して、み教えを聴く中で「信心の獲得」こそが重要だと思いうようになりしました。お聴聞の後は阿弥陀様の願いが分かったような気がします。しばらくすると、私の煩惱が徐々に打ち勝ち、元の自分に戻り、信心の獲得の難しさを感じています。こんな時、阿弥陀様の「かならず救う、われにまかせよ」という言葉は、心強く安心感を与えてくれるものでした。

ここで思い起こされる人が、石見の妙好人と言われる浅原才市さんです。千八百五十年生まれの八十三歳で亡くなっておられますが、生涯、阿弥陀様と一緒に生きてきた人で、み教えに関する詩が六千二百首以上残されています。その詩によく出てくる言葉は、「ご恩うれしや なむあみだぶつ」だそうです。その詩の一つを紹介します。

あたしやあさまし  
親のご恩がよろこばれん  
よろこばれんなら  
ほうっておけよ

凡夫がよろこぶ法ではないよ

ご恩うれしや

なむあみだぶつ

あさましい凡夫に寄り添って離れない阿弥陀様に「ご恩うれしやなむあみだぶつ」と自然に口をついて出た言葉であることが伝わってきます。

煩惱の塊である私ではあります

が、まずは形から念仏を称え、我が行いを振りかえり、浅原才市さんを鏡に生きたいと思えます。

これからも、浄土真宗のみ教えを聞き、自他共に心豊かに生きることでできる社会の実現を目指して、本願寺派の門徒として共に歩んでいきましよう。

## 令和六年度 門徒推進員連絡協議会総会・研修会

鳥取因幡組 光輪寺門徒 松田 吉正

表題の総会・研修会が七月二十七日、山陰教堂で行われた。研修室は参加者七十余名の熱気と折からの酷暑で、エアコンが機能しない状態となった。総会は報告・提案の通り承認され、十月二十七日～二十八日、玉造で開催の第四連区門徒推進員実践運動研修会テーマ「門徒推進員という生き方【理念】」に向け、取り組みを強めることとなった。

休憩の後「上農は土を作るがごとく」を御題に大田中組浄福寺住職高津眞悟師の法話をいただいた。御題は「下農は雑草をつくり、中農は作物をつくり、上農は土をつくる」の一節のことだ。

師はご自身が僧侶となつたいきさ

つを話され、農業を基盤とする僧侶で、本願寺派の中では少ないだろうとのこと。

能登半島地震による災害地への支援から、能登の高齢の方々から、本願寺さんへありがたいとの言葉を耳にしたとのことであり、師が通われた中央仏教学院での学業を通し、親鸞さまつてすごいお方だなと衝撃を受け、念仏を土の中を感じる、今の自身が培われたとお話であった。能登の地のかたの「本願寺さんへありがたい」「本願さんはありがたい」と受け取らせていただく研修であった。 合掌

## 山陰教区実践運動研修会に参加して

浜田組 正念寺 鎌原 ヤシエ

去る二月二十五日、山陰教堂にて実践運動研修会が開催されました。

今回の研修会は、新型コロナウイルス感染症が五類に移行したため、参加人数の制限がなくなり六十八名の仲間が参加されました。

ご講師は連研中央講師の金盛麻衣子師でした。問題提起「門徒推進員という生き方【理念】について」ご講義いただきました。

門徒推進員は「資格」ではなく「自覚」そして「生き方」である。近年の「門徒推進員中央教修」では、門徒推進員の果たすべき役割が運動推進の活動に限定されず『生き方』である事が提起されています。との説明がされました。

昨年、私たちの門推の先輩が、百歳でご往生されました。その方へ五年前に初めて会費をもらいに訪れた時、お嫁さんが「義母は今、施設に入っています。日頃から門徒推進員として、お浄土へ行きたいと言っております。義母が生きている間は、門徒推進員です。」と言われました。

なんと立派な方だろうかと、目頭が熱くなったことを今でも鮮明に覚

えています。

この先輩から、「念仏者として生きることが、門徒推進員の生き方ですよ」と気づかせていただきました。

これからも自覚と誇りをもって、一日一日を大切に歩んで参りたいと思います。





## 第四連区門徒推進員実践運動研修会

松江組 明宗寺

福原 一字(釋深法)

第四連区門徒推進員実践運動研修会は、持ち回りで本年度は山陰教区の当番教区、六年ぶりのご当地開催でした。去る十月二十七日から二十八日、会場を玉造温泉「ホテル玉泉」にて開催、恒例の一泊二日の日程で中四国それぞれの教区より多数の方々に参加、事務局員・講師先生・教務所長を含めると総勢一四四名の研修会となりました。午後一時から開会式、勤行・代表焼香・開催地の教務所長、また山陰教区門徒推進員連絡協議会会長に挨拶をいただきました。開会式の最後は真宗宗歌を唱歌、引き続き講師の紹介の後、講師先生の問題提起へと滞ることなく進行されました。

今回は、「門徒推進員という生き方【理念】」を主テーマとして、佐賀教区松浦組 源光寺 波多唯明師をご講師に、

①門徒とは何でしょうか？  
②私（あなた）はどのような門徒になつていきたいですか？

の二つの問題を提起いただきました。

この後休憩を挟んで、各班に分かれ（十七班）山陰教区の理事を座長に話し合い法座を夕事勤行までの時間行いました。自己紹介や懐かし話を交え、従来の記録・発表者を設けず、個々の参加者は付箋に自分の思いを書き表し、それを大きな模造紙に張り付ける方法がとられました。この方法は個人の思いがそのまま記載され、記録発表者の負担軽減と発表時間を削除することが出来、非常に良い方法だと感じました。

夕事勤行が終了し、初日の研修会が終了しました。その後は自由時間・和やかな懇親会で初日が終了いたしました。

二日目、朝食・朝のおつとめが終わると全体会が始まりました。班ごとに纏められ書き表された内容について、十人前後の参加者に詳しくお話を聞くことができ、とても感動いたしました。講師先生より纏めのご法話をいただき、とても素晴らしい二日間に渡る研修会を終えることができました。

閉会式には、山陰教区門徒推進員連絡協議会副代表がお礼の言葉、次

回開催教区の備後教区門徒推進員連絡協議会の代表者が、開催のお知らせと多数のご参加依頼挨拶で全日程無事終了することができました、ありがとうございました。

合掌



出雲組 宗玄寺

錦 織 智恵子

今年度の研修会は、十月二十七日（二十八日玉造温泉で一四四名の参加者で開催されました。

研修テーマは、「門徒推進員という生き方（理念）」について、策定会議に出席された佐賀教区 松浦組 源光寺の波多唯明師より経緯や理念について講義をいただきました。

話し合い法座のテーマは、①門徒推進員とは何でしょうか？②私（あなた）はどんな門徒になっていきたいですか？について十七グループで行われました。各個人の意見は付箋に記入し、模造紙に付箋を貼り付けグループごとに掲示発表されました。

全体会では、掲示された意見への質疑応答や、テーマについて率直な意見が次々と話されました。「お寺は、もうお家です。」の発表は感銘を受けました。時を重ねて築かれたお寺と門徒との絆は車の車輪となっていることが示されているように感じました。

講師先生は、「お寺への思いが昔と比べて大きく変わってきている。聴聞を重ねていくこと、門徒同士共に考え話しあつて共有し合う話し合い法座が大切。」門推の研修会へ住職も参加し、門推の思い、本音を知る



事も必要。」「お念仏を申すその姿が、周りに伝わっていくことこそ大切な役割。」と法話くださいました。私は理念が心に響きました。先祖代々伝えられ、今私に伝えられている大切なお念仏。このお念仏を遠くにいる子や孫へできることから伝えていきたいと思っています。実り多い研修会に参加し、私の姿を見つめ直すことができました。

交流会は妙好人にまつわるクイズ等、山陰ならではの催しに大盛り上がりでした。

次回は備後教区です。一人でも多く参加しましょう。

## 寄稿

## 新会員の声

松江組 明宗寺

清水弘子〔釋智明〕

恐れ多くも門徒推進員としての命を受け、身を引きしめ日々何かの「かけら」を拾い、社会に貢献する努力をします。

出雲組 妙壽寺

山根盛宏

お寺にお参りすると心が穏やかになります。多くの方がお参りなさるよう、微力ながら勤めていきます。

出雲組 妙壽寺

山根みどり

幼馴染と年一回の旅行、小さな家庭菜園や趣味の書道に加え、門推の活動も皆様と楽しくやっていきたいです。

出雲組 妙壽寺

伊藤淳

中央教修において、「浄土は身近なところにある」事を知り、この事を多くの人に伝えたいと思います。

出雲組 龍善寺

柳楽隆則

念仏者の生き方として人とのつながりを大切にし、阿弥陀様の大きな心で救われていることに感謝。南無阿弥陀仏

出雲組 覚専寺

小村克美

阿弥陀如来様の前で誓った「笑顔で楽しく」を忘れずに、ご縁に感謝しながら一日一日を大切に過ごします。

出雲組 覚専寺

原美江

中央教修を終え、一年が過ぎました。南無阿弥陀仏をよりどころに生活していくと思う日々です。

出雲組 宗玄寺

山根克美

連研や中央教修で学んだことを基に、門推としての自覚を持ち、お聴聞を大切に活動していきたいと思っています。

出雲組 月光寺

北村隆

護持発展に勤めます。

出雲組 成福寺

舟木貴志夫

昭和二十六年一月雲南市大東町生まれ、仕事で日本全国、海外三十数ヶ国をめぐる見聞を広める。昨年総代長を拝命。

神門組 長楽寺

園山正恵

中央教修で学びの機会を得て、門徒の方々とのご縁も広がりました。今後も更に研鑽に努めたいと思います。

出雲南組 萬行寺

織田陽子

多くの方に「阿弥陀様の願い」に出逢っていただけるよう、お聴聞への声掛けに努めてまいります。

出雲南組 常信寺

藤原寛

人生は「二期一会」出会えた方から感謝するとともに、お寺の行事に参加し、お聴聞を続けたいと考えます。

出雲南組 常信寺

藤原永次

現在のお寺の仏社会会長としており

ます。お寺で行われる行事・会に進んで参加します。

出雲南組 専正寺

森山進

昨年の五月に中央教修を受けました。印象に残ったことは、広い部屋でろうそく四本の中で誓いの言葉を述べたことです。私は「若い人も集まりやすい専正寺になるように住職と一緒に頑張ります。」と述べました。実行していきたいと思います。

大田東組 浄賢寺

岩根徹也

男性門徒さんとお寺の行事に積極的に参加し、仏教を学ぶ会を立ちあげました。この輪を大きくしていきたいです。

## 寄稿 新会員の思い

松江組 西宗寺

楠木達夫〔釋達観〕

第二八五回門徒推進員中央教修（十八名）を修了し、また山陰教区門

徒推進員に委嘱となりました。

中央教修三日目の決意表明式では緊張して、何を言ったのかよく覚えていません。改めて決意表明します。

（私は念仏者の自覚をもつて、地域で浄土真宗のみ教えに基づいた、生き方を続けます。釋達観）

まずは、毎朝勤行でお経・偈・を替えて唱えており、慣れて楽しくなってきました。

・浄土真宗の生活信条・正信念仏偈（如来の本願に遇うことができる喜びの偈）

・しんじんのうた・讃仏偈（阿弥陀如来の救おうとする願心がつらねかかっている偈）

・さんだんのうた・重誓偈（すべての衆生をすくいとろうという、四十八の願の偈）

・ちかいのうた・十二礼（浄土の美しく尊いすがたの偈）・らしいのうた

・仏説阿弥陀経（一心不乱に念仏すれば、浄土に生まれるお経）。

仏教讃歌では、真宗宗歌・恩徳讃・しんらんさま・ひかりあふれて・み

ほとけにいだかれて、愛唱歌（みんな花になれ）等をユーチューブを見ながら歌っています。七月の法話カ

レンダーに【行いと言葉の背後に世間があるか如来があるか】との法

語がありました。

私の日常生活で、沢山の煩惱、苦悩を阿弥陀如来が取り除くのではな

く成仏まで導いてくれる。そのような意味だと思うのですが、考えさせられる法語で迷っています。

門徒推進員に巡り合い仏法に目覚め大きな転機となり、生きがいが増えました。今後は御仏に従い、お互いにうやまい助け合い、社会の為に尽し強く明るく、子孫繁栄を願いつつ生きていきます。あらかしこ

出雲組 妙壽寺

湯浅万里子

門徒推進員になる時に中央研修で決意表明してから、早いものでもうすぐ一年が来ます。決意表明の時の

ろうそくの光の中の感動は今でもはつきり覚えています。「南無阿弥陀仏と手を合わせ、お浄土への道を歩く。」と決意しました。その時のことを思い出すようにしています。感動

した感覚というのは、同じように思い出せるもので目頭が熱くなります。

最近南無阿弥陀仏を唱えると、毎日の出来事を報告出来る相手がいるような安堵感があります。

昨年末に除夜の鐘をたたかせていただきました。大勢の子供たちが鐘の鳴らし方を教わって次々に打ちますが、どの子も上手に打つので感心しました。

この子たちの中にも学校に通っている子、何らかの事情で通えない子、ひとり親家庭の子、障害を抱える子、

どんな子も輝く笑顔でいられるような社会になることを望んでいます。

今年は子供たちが集まる行事に参加して、幼い友達が出来るように頑張ります。相手にしてもらえるのか心配ではありますが。

大田東組 浄賢寺

岩根徹也

これからの私が行うべきこと、それは私自身が浄土真宗・仏法を正しく理解すること。そして、まわりに正しく伝えていくことだと考えます。

仏教の起源、日本への伝来、宗祖親鸞聖人の生き方、考え方。私が解っていない事ばかりある中で、門徒推進員として認めていただき、所属寺の住職と共にお寺を支えていく事を決意しました。

まず始めたことは、報恩講のお斎作りに参加しました。調理場の設定はもちろん、野菜を切る・鍋を洗う・けんちんを煮る・ご飯を装うなど、思っていた以上の重労働でしたが、改めて食を通じたお寺行事への参加を楽しく感じた。こういう所が原点にあつて、お寺を通じ、浄土真宗を通じ、つながりが深まり続いていくのではないかと感じました。門徒を意識のなくなった世代の人々に、お寺を通じてつながりを作り、お互いを支えていける関係を作っていきたい。



## 門徒推進員という生き方【理念】

今般、門徒推進員の具体的な役割や願いを明示するため、「門徒推進員という生き方【理念】」を作成いたしました。この内容の意図するところが広く宗門内に周知されることを願います。

### 【門徒推進員とは】

阿弥陀如来は、私たち生きとし生けるすべてのものをお浄土に生まれさせ仏に成らせて、本当のしあわせと安らぎを与えたいとの願いを建て、その願いを成就して、今「南無阿弥陀仏」の名号となって私に届いています。

そして、阿弥陀如来は、あらゆるいのちは、あるがまま等しく尊いことを知らせるため、お浄土を私たちのめざすべき世界と示し、はたらきつづけてくださっています。

その願いとはたらきを聞きつつお浄土をめざしてお念仏申して生き、阿弥陀如来の願いを私の願いとして生きる人を念仏者<sup>ともがら</sup>といいます。その人を、親鸞聖人のみ教えを仰ぐ「門徒（同じ門下の徒）」といいます。

阿弥陀如来の願いとはたらきに出遇った私たち念仏者は、社会にはさまざまな問題があることや、私たちの教団が差別をし、戦争に協力してきた負の歴史の事実から、阿弥陀如来の願いの通りにはなっていない現実気づかされます。

それらの現実を他人事とせず、私たちの社会や教団が阿弥陀如来の願いにかなうものであるように、み教えに問い、聞き、語り、共に育ちあいながら、解決し克服する歩みが念仏者という生き方です。

「連研」を受講し終えて「中央教修」を修了して、自らの生き方の中心となるみ教えが明らかになり、阿弥陀如来のお心を私の「ものさし」（価値判断基準）とし、それぞれが自覚と主体性をもって歩み続ける念仏者を門徒推進員といいます。

### 【門徒推進員として】

門徒推進員は、生涯念仏者の自覚をもって寺院、家庭、職場、及び地域などで、み教えに基づいた生活（生き方）を続けます。

さらに、寺院・組・教区・特区・開教区（開教地）の門信徒・僧侶・寺族とともに、教団の運動の推進にあたります。

＜2023（令和5）年6月30日策定＞

## 門徒推進員という生き方【理念】〔解説文〕

今般、門徒推進員の具体的な役割や願いを明示するため、「門徒推進員という生き方【理念】」を作成いたしました。

現在「年齢を重ねて、寺院の活動に取り組むことができなくなったから、門徒推進員を続けられない」という方がおられます。

また、門徒推進員とは何なのかをご存知いただけていない僧侶や門徒の方がたがおられます。

そこで、門徒推進員とはどのような存在なのかということを理解し、「連研」や「中央教修」の受講を勧める際の一助にさせていただきたいとの思いで作成したのがこの「門徒推進員という生き方【理念】」です。

私たちの教団の運動は、時代を経て名称等の変更が重ねられてきました。門徒推進員は、この【理念】に基づいて教団が進める運動に積極的に参画し、推進していく門徒をいいます。

### 【門徒推進員とは】

阿弥陀如来は、私たち生きとし生けるすべてのものをお浄土に生まれさせ仏に成らせて、本当のしあわせと安らぎを与えたいとの願いを建て、その願いを成就して、今「南無阿弥陀仏」の名号となって私に届いています。

そして、阿弥陀如来は、あらゆるいのちは、あるがまま等しく尊いことを知らせるため、お浄土を私たちのめざすべき世界と示し、はたらきつづけてくださっています。

仏教は、仏さまに成る教えです。仏さまに成ることが目的であり、仏さまに成ることが本当のしあわせと安らぎを得ることです。浄土真宗という仏教は阿弥陀如来のひとりばたらき他力で往生成仏させていただくのです。

その願いとはたらきを聞きつつお浄土をめざしてお念仏申して生き、阿弥陀如来の願いを私の願いとして生きる人を念仏者といいます。その人を、親鸞聖人のみ教えを仰ぐ「門徒（同じ門下の徒<sup>ともがら</sup>）」といいます。

『浄土真宗辞典』には、門徒とは「同じ門下のともがら。同じ教えを奉ずる同朋、または個人のこと。」「本願寺派では、宗法などに規定があり、僧侶及び寺族以外の者で、宗門の目的を遵奉し、本山に帰向し、寺院に所属して、その寺院の門徒名簿に登録された者をいう。」と記されています。

この「門徒推進員という生き方【理念】」においては、法規に規定される用語としてではなく「門徒」の内実を重視してこのような表記にいたしました。

阿弥陀如来の願いとはたらきに出遇った私たち念仏者は、社会にはさまざまな問題があることや、私たちの教団が差別をし、戦争に協力してきた負の歴史の事実から、阿弥陀如来の願いの通りにはなっていない現実気づかされます。

それらの現実を他人事とせず、私たちの社会や教団が阿弥陀如来の願いにかなうものであるように、み教えに問い、聞き、語り、共に育ちあいながら、解決し克服する歩みが念仏者という生き方です。

「連研」を受講し終えてを「中央教修」を修了して、自らの生き方の中心となるをみ教えが明らかになり、阿弥陀如来のお心を私の「ものさし」（価値判断基準）とし、それぞれが自覚と主体性をもって歩み続ける念仏者を門徒推進員といいます。

4段落目以降は、多方面から発せられる、門徒と門徒推進員の違いは何なのかという問いに応える意味合いがあります。本来ならば違いが無いのが理想ですが、「連研」や「中央教修」を経て、単に仏教用語を学び、教学の知識を身につけることにとどまらず、人生の中で「み教えに問い、聞き、歩む」日常生活を送っていただきたいという願いです。それが「み教えを依りどころに生きる」ということでしょう。

【門徒推進員として】

門徒推進員は、生涯念仏者の自覚をもって寺院、家庭、職場、及び地域などで、み教えに基づいた生活（生き方）を続けます。

さらに、寺院・組・教区・特区組・開教区（開教地）・の門信徒・僧侶・寺族とともに、教団の運動の推進にあたります。

「中央教修」での「門徒推進員とは」の單元では、「資格ではなく自覚」ということがいわれてきました。しかし「自覚」といいながらも何らかの「活動」をしなければならないという意識を与えてきてしまいました。その結果「活動」ができなくなると門徒推進員を辞めたくなる方も多く見られました。

「自覚」を持って自発的に現れてくる「活動」は尊いことですが、必ずしも「活動」が伴わなければならないわけではありません。

お念仏申させていただくその姿が周りの人々に伝わることこそ門徒推進員としての生き方として大切な役割でありましょう。

この「門徒推進員という生き方【理念】」では、それぞれの日常生活で、それぞれの生涯を貫くような「門徒推進員という生き方」があることを明示する意図があります。

<2023 (令和 5) 年 6 月 30 日 策定>

山陰教区門徒推進員連絡協議会 役員名簿

(2024年 4 月 1 日～2026年 3 月 31 日)

| 役 職   | 名 前   | 所属組  | 所属寺   | 役 職 | 名 前   | 所属組 | 所属寺   |
|-------|-------|------|-------|-----|-------|-----|-------|
| 会 長   | 齊藤 寛  | 大田東  | 西 楽 寺 | 理 事 | 日野 邦雄 | 出雲  | 通 傳 寺 |
| 副 会 長 | 今岡 昌紀 | 神門   | 願 楽 寺 | 理 事 | 岸本 邦夫 | 出雲  | 東 林 寺 |
| 事務局担当 | 石飛 安弘 | 出雲南  | 福 泉 坊 | 理 事 | 本田 和政 | 神門  | 正 善 寺 |
| 会計担当  | 長井 正樹 | 江津   | 光 善 寺 | 理 事 | 和田 幹雄 | 飯南  | 一 念 寺 |
| 理 事   | 松田 吉正 | 鳥取因幡 | 光 輪 寺 | 理 事 | 鎌原ヤシエ | 浜田  | 正 念 寺 |
| 理 事   | 西山 賢一 | 鳥取伯耆 | 香 寶 寺 | 監 事 | 福城 育夫 | 神門  | 乗 光 寺 |
| 理 事   | 福原 一字 | 松江   | 明 宗 寺 | 監 事 | 加藤 裕治 | 大田東 | 真 淨 寺 |

編集後記

『第四連区 門徒推進員連絡協議会 実践運動研修会を振り返って』

今年度は、第四連区 門徒推進員 実践運動研修会が山陰教区にて開催されました。会場は、玉造温泉の「ホテル玉泉」で行い、多くの参加者が山陰教区に集まりました。

私が連区行事を担当するのは、門徒推進員連絡協議会が初めてであり、不安で押し潰されそうでしたが、理事の皆様と教区門徒推進員のご協力により、無事に研修会が行えました。

ありがたいことに、門徒推進員の皆様が「何でもするから役をあててくださいね。」「懇親会での出し物、これはどうですか」等、協力や意見をいっぱい出していただき、山陰教区全体で支えられた研修会だと実感しています。中には研修会会場に直接向かい、駐車場の車の台数の再確認や当日のリハーサル等を行っていたいた門徒推進員さんもおられました。

おかげさまで自教区・他教区大好評の研修会になりましたこと御礼申し上げます。二〇二五年度は備後教区にて第四連区 実践運動研修会がごさいます。ぜひ皆さまご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

【担当者K】

機関紙「ともしび」第21号 訂正について  
機関紙「ともしび」第21号（2024年3月27日）発行の記事に誤りがございました。

（訂正箇所）

5ページ・3段目・8行「御同朋の社会をめざして」

（出雲南組 善徳寺 永見克久

誤）支えにしている 正）支えている

5ページ・4段目・24行「御同朋の社会をめざして」

（出雲南組 善徳寺 永見克久

誤）他社 正）他者

門徒推進員の皆様並びに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたこと深くお詫び申し上げます。